

## 第 19 回: 広く普及

会長 田中 仙堂

オリンピックで、一人の金メダル選手を出すためには、一万人の普通の選手が必要であると聞きました。もちろん、それ以下の競技人口でメダルを獲得した競技種目はあります。その努力が驚異的だったということはさておき、何事にも、頂点を高くするには、周りに広く広がる裾野が必要なことを改めて気が付かせてくれたのがオリンピックです。

茶道を一般に紹介する活動を行っても、なかなか稽古場まで通ってくれる方が出てこない、何が悪いのだろう、との声をよく聞きます。しかし、興味をもっていなかった人に働きかけた結果、ご自身の稽古場に通われるお弟子さんが出現するのは、メダリストを輩出するようなものであると考えたならば、そんなに落ち込まなくても済むのではないのでしょうか。相手を、「稽古に通う人/ 通わない人」の二つにだけに分けてしまうのではなく、「茶道のファン」という物差しでも測ってみてください。

「茶道のファン」は、お弟子さんではありませんが、お弟子さんを生み出すための環境に不可欠な存在です。スポーツを選ぶ場合を考えてください。「そんなスポーツあったの?」、「知らないわ」と疑問や否定を呈せられるよりも、「かっこいいわね」、「うらやましい」等の声に支えられた方が、そのスポーツを選ぼうという意欲が高まります。

「茶道のファン」は、自分が茶道に関わらなくても、茶道の理解者として、茶道に関わる人々を肯定的に受け止めてくれます。これまでは、そのような方々が日本人の大半だったので、私たちはどこかで「茶道のファン」の大切さを忘れていたのではないのでしょうか。未来に向けて「茶道のファン」を絶やさないことも、「広く普及」することに含まれています。

平成 28 年 11 月発行 会報「えんじゅ 89 号」掲載